

沖縄県平和祈念資料館だより

戦後70周年(教訓の継承と平和の発信)

沖縄の風景を一変させ、軍民20万人余の死者を出した凄まじい鉄の暴風、ありったけの地獄を集めたと米軍戦史に刻まれた悲惨な沖縄戦が終わって70年が経過しました。

悲惨な沖縄戦を体験した方々の高齢化が進み、戦争を知らない世代が増える中、県民の戦争体験を基に、住民から見た沖縄戦の実相を次代に伝えていくという当館の役割はますます高まっており、また、平和発信の更なる充実も求められています。

当館の主要事業の一つである「児童・生徒の平和メッセージ」は、県教育委員会との共催で児童・生徒に図画、作文、詩の創作活動を通して平和について考えてもらい、平和を尊ぶ心を育てるとともに、その感性にあふれた作品を国内外に発信することを目的として実施していますが、これまでの詩部門の最優秀作品は、沖縄全戦没者追悼式で朗読され、NHKによる全国中継や全国紙等における掲載、絵本化や副読本化、曲付けや海外での多言語化など、様々な形で平和メッセージとして発信されています。

戦後70周年の節目の年である今年度の作品には、戦争体験の記憶の継承について「継承の主体となる」という想いや「継承のための行動を始めている」という内容の作品など児童生徒が平和について考え、積極的に取り組んでいる様子が見られ、追悼式で朗読された「みるく世がやゆら」は平和へのメッセージを琉球の時代からつながる普遍性の中で訴えるものと

なっていました。沖縄戦の歴史的教訓を次代へ正しく継承していくためにも、更に学校現場、関係機関等との連携を密にして平和学習等の事業の充実に取り組んでいくことが重要であると考えております。

また、当資料館では、常設展等を含め様々な事業を実施しておりますが、そのうち特別企画展は、常設展では取り上げられていない事項をテーマとして開館当初から開催しているもので、当館の調査・研究等の成果を展示してきました。一昨年度は沖縄戦に関わったハワイの県系人について、昨年度は旧南洋諸島へ移民したウチナーンチュの戦前から戦後の様子について取り上げましたが、今年度は、台湾・フィリピンの県系人が戦に巻き込まれ、翻弄されていく様子を住民目線で捉え、沖縄戦を含むアジア太平洋戦争の全容について考えるとともに、悲惨な戦争の教訓を次代に伝え、平和を希求する「沖縄のこころ」を発信する機会にしたいと考えております。

戦後70年の節目の年に、多くの県民の皆様が、特別企画展をはじめ常設展、その他の企画等に足を運んでいただき、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて考え、周りの方々と話し合い、平和の創造へ取り組んでいただけたらと思います。

<どんなに悲惨な体験であっても、二度と繰り返さないと誓っても、伝えなければ忘れ去られてしまう。そして、人間は同じ過ちを繰り返す>

平和祈念資料館 館長 國 仲 功



小学校低学年の部
真壁小学校2年 金城 尚 吾

第25回 「児童・生徒の 平和メッセージ」 図画部門最優秀作品



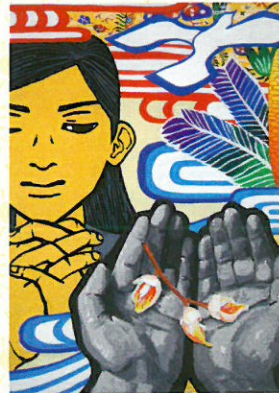
小高学年の部
真喜良小学校4年 入米蔵 美 月



特別支援学校の部
美里小学校6年 金城 朱 伶



中学校の部
上野中学校3年 川田 悠 可



高校の部
普天間高校2年 宮崎 秋 穂

新収蔵品展・平成25年度～26年度新収蔵資料

当館では、開館以来多くの方々から沖縄戦に関する資料をご寄贈いただきました。寄贈資料を広く一般公開するとともに、寄贈された皆さまへの感謝の意を表すために新収蔵品展を開催しています。今回は、平成25年度から26年度の2年間に、25人、4団体からご寄贈いただいた260点の資料や写真パネルの展示となっています。遺書や軍刀、砲弾や収容所で作られた三線など、そのどれもが戦争の実相を知る上で貴重な資料となっています。7月9日から9月16日の開催期間に、県内外から多くの方々にご観覧いただきたいと思います。

〔開催期間〕平成27年7月9日(木)～9月16日(水)

〔場所〕沖縄県平和祈念資料館1階 企画展示室



〔オープニングの様子〕

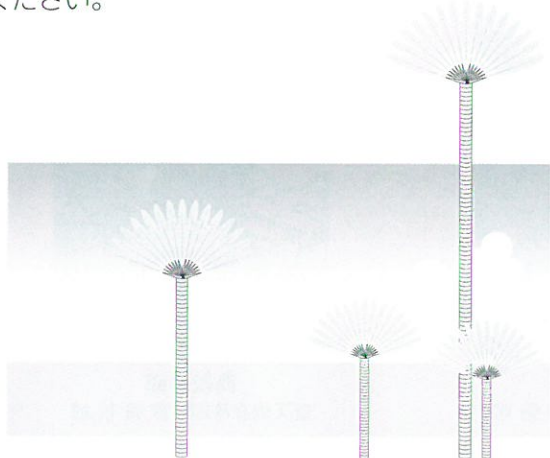


〔新収蔵品展の様子〕

企画展「戦時中の手紙・手記からみる家族の絆」展

○期間：平成27年8月1日(土)～8月31日(月) ○場所：県平和祈念資料館1F企画展示室

戦時中における家族への手紙・手記をとおして、家族の絆とは何か、思いやりとは何かをあらためて考えてみませんか。戦時中の厳しい状況下、当局の検閲を受けながらも愛する家族のために書き綴った手紙・手記の一文字一文字からは、そのあふれんばかりの家族愛が伝わってきます。デジタル化した現在の私達が、もしかしたら忘れつつあるのかもしれない手書きの手紙や手記のもつ暖かさを、ぜひ感じてみてください。



企画展
「戦時中の手紙・手記からみる
家族の絆」

戦地から家族へ……。疎開先にいる我が子へ……。
いつの時代も、変わらない家族の愛、絆。

主催 沖縄県平和祈念資料館
期間 平成27年8月1日(土)～8月31日(月)
9時～17時
場所 沖縄県平和祈念資料館1階 企画展示室

入場無料

平成27年度 第1回子ども・プロセス企画展 「沖縄戦と本土決戦ー捨て石にされた沖縄ー」

子どもたちが沖縄戦について考える機会とするために、「沖縄戦と本土決戦ー捨て石にされた沖縄ー」を5月28日～7月7日に開催しました。

沖縄戦の何よりの特徴は、軍人よりも住民の戦死者がはるかに上まわっていることで、これは日本軍が持久戦を行ったことなどが大きな要因になっています。米軍に勝利する見通しがないうちに、住民を巻き込んだ戦いが3カ月以上も続けられ、18万8千人以上の日本人が戦死する悲惨な結果となりました。

日本軍が「最後の一人まで戦い続ける」持久戦を行ったのは、本土決戦のための時間稼ぎが目的だったといわれています。今回の企画展では、沖縄戦と密接に関係する本土決戦について、国民を総

動員する計画や特攻隊などについて展示しました。本土でも「沖縄戦」と同じ状況になったかもしれないということで、県外からの修学旅行生も熱心に見学していました。



第25回「児童・生徒の平和メッセージ展」報告

(1) 内容

恒久平和を願う「沖縄のこころ」を県内外に発信する本館の主要事業の1つである、「児童・生徒の平和メッセージ展」も今年で25回を迎えます。戦争や人権問題など、学校で学習したこと、生活の中で感じた「平和」をイメージした図画、作文、詩を県内の小・中・高校及び特別支援学校の児童・生徒から募集し、優秀な作品を表彰するもので、沖縄県教育委員会との共催で毎年実施しています。

今回は146校から4,606点の応募がありました。毎年、入賞作品には、「作品に曲をつけたい」「絵本として出版したい」など、県内はもとより全国からも大きな反響のある事業です。見事入選した優秀作品は、当館を皮切りに、八重山平和祈念館、イオン名護店、県庁県民ホール、宮古島市役所、ハワイ沖縄センター(ハワイ州ホノルル市)の6会場で巡回展示します。今年は、戦後70年の節目の年にふさわしい作品が多くありました。身内である沖縄戦体験者と寄り添う思いやり、沖縄戦の記憶の継承に積極的に関わろうとする姿勢が、児童・生徒たちの作品から伝わってきました。



(2) 開催場所・期間

- 沖縄県平和祈念資料館 6月23日(火)～7月9日(木)
- 八重山平和祈念館 7月15日(水)～7月26日(日)
- イオン名護店 8月1日(土)～8月9日(日)
- 県庁1階(県民ホール) 8月17日(月)～8月21日(金)
- 宮古島市役所 9月2日(水)～9月11日(金)※土日除く
- ハワイ州ホノルル市(ハワイ沖縄センター) 平成28年2月1日(月)～2月5日(金)

第25回「児童・生徒の平和メッセージ」入選者一覧(優良賞以上)

■ 図画の部入選者

■ 作文の部入選者

■ 詩の部入選者

小学校(低)の部(4名)			小学校(低)の部(4名)			小学校(低)の部(3名)		
最優秀賞	金城 尚吾	(真壁小2年)	最優秀賞	佐伯 美羽	(真喜良小3年)	最優秀賞	大城 洋輔	(登野城小2年)
優秀賞	西村 美音	(真喜良小1年)	優秀賞	美崎伊栞里	(大浜小2年)	優秀賞	与那覇心花	(真喜良小1年)
優良賞	照屋 米奈	(高嶺小3年)	優良賞	長浜 吏音	(渡慶次小2年)	優良賞	仲本 壮汰	(佐手小3年)
優良賞	美崎伊栞里	(大浜小2年)	優良賞	内原妃茉莉	(真喜良小1年)			

小学校(高)の部(11名)			小学校(高)の部(6名)			小学校(高)の部(8名)				
最優秀賞	入米蔵美月	(真喜良小4年)	最優秀賞	仲間 里咲	(金武小5年)	最優秀賞	相良 倫子	(港川小6年)		
優秀賞	嘉味田琉愛	(真地小6年)	優秀賞	佐和田杏樹	(コザ小6年)	優秀賞	外間 碧海	(とよみ小6年)		
	砂川 拓也	(高嶺小4年)						上地 光琉	(佐手小6年)	
優良賞	奥間 涼夏	(室川小6年)	優良賞	山城 文花	(佐手小6年)	優良賞	古石 華子	(私立沖縄アミークスイ ンターナショナル小5年)		
	天久ひとみ	(大謝名小6年)			金城くらら		(金武小5年)		アリ アヤ	(私立沖縄アミークスイ ンターナショナル小5年)
	棚原 理公	(真地小6年)			山田はんな		(上田小6年)		下地絵美利	(神森小6年)
	仲宗根春歌	(大道小6年)			島袋 智凜		(私立沖縄アミークスイ ンターナショナル小6年)		富原 空	(比川小4年)
	西川 耀渚	(福嶺小6年)							桃原 寿奈	(大里北小6年)
	池間 暖	(福嶺小6年)								
	上田 真子	(久松小6年)								
友利 綺良	(鏡原小4年)									

中学校の部(10名)			中学校の部(9名)			中学校の部(10名)				
最優秀賞	川田 悠可	(上野中3年)	最優秀賞	仲宗根小華	(美東中3年)	最優秀賞	相良 萌子	(港川中2年)		
優秀賞	金城 にこ	(北中城中2年)	優秀賞	幸喜 汐里	(玉城中1年)	優秀賞	宮里 華奈	(港川中2年)		
	平良 瑚雪	(長嶺中2年)			有銘真之助		(私立沖縄商学中2年)		喜納 碧	(西原中3年)
優良賞	太 陽花	(宮里中3年)	優良賞	新里 恵梨	(西原東中3年)	優良賞	比嘉 光希	(渡名喜中3年)		
	塩野 桃子	(宮里中3年)			神里 季利		(西原東中3年)		渡具知和奏	(緑風学園久志中8年)
	金城 沙英	(浦添中3年)			興崎 夢乃		(兼城中2年)		喜屋武鈴弓	(豊見城中3年)
	呉屋 茜空	(浦添中2年)			安田 潤平		(豊見城中3年)		古謝美乃里	(港川中3年)
	長嶺 和輝	(仲西中3年)			林 愛由菜		(私立沖縄商学中2年)		比嘉 駿	(浦添中2年)
	内間つばさ	(長嶺中2年)			知念 大虹		(私立沖縄商学中1年)		奥平 芽衣	(北中2年)
	本村 未来	(上野中3年)							前泊姫奈多	(北中3年)

高等学校の部(6名)			高等学校の部(9名)			高等学校の部(10名)				
最優秀賞	宮崎 秋穂	(普天間高2年)	最優秀賞	島尻 優楓	(八重山高2年)	最優秀賞	知念 捷	(与勝高3年)		
優秀賞	平良 静香	(浦添工業高3年)	優秀賞	神山 実穂	(開邦高2年)	優秀賞	呉屋 鳳輝	(那覇高3年)		
	松田 夏姫	(浦添工業高2年)			仲里 茜音		(開邦高2年)		武島 麗海	(豊見城高3年)
優良賞	渡久山沙織	(那覇高3年)	優良賞	小橋川 遥	(前原高1年)	優良賞	徳田 美咲	(首里高3年)		
	高嶺 瑞貴	(浦添工業高2年)			大城 倫子		(普天間高3年)		宮平 恵寿	(首里高3年)
	藤 紗弥	(浦添工業高2年)			高良 風伽		(開邦高3年)		玉城 真理	(首里高3年)
					大城 未歩		(開邦高2年)		下地 美咲	(首里高3年)
					野底 海友		(開邦高1年)		松田 琉正	(中部農林高3年)
			長濱アイシャ	(伊良部高3年)		島袋 きらら	(糸満高2年)			
						金城 千春	(那覇商業高1年)			

特別支援の部(3名)			特別支援の部(0名)			特別支援の部(3名)		
最優秀賞	金城 朱伶	(美里小6年)	最優秀賞	作品応募なし		最優秀賞	該当者なし	
優秀賞	上江洲礼那	(浦添中1年)	優秀賞			優秀賞	下地 安奈	(沖高特支3年)
優良賞	玉城 健伸	(大浜小4年)	優良賞			優良賞	上間 鈴華	(安慶田小5年)
						優良賞	川満 芹奈	(沖高特支2年)

沖縄県平和祈念資料館第16回特別企画展『戦後70年 伝え残す記憶』 ～ウチナーンチュが見た戦前・戦時下の台湾・フィリピン～

1. 開催期間 (沖縄県平和祈念資料館) 平成27年10月 9日(金)～12月10日(木)
(八重山平和祈念館) 平成28年 1月16日(土)～ 2月25日(木)

2. 開催場所 (沖縄県平和祈念資料館) 1階企画展示室
(八重山平和祈念館) 第2展示室

3. テーマの趣旨

今から70年前、戦艦に海を覆い尽くされ、激しい艦砲と壮絶な地上戦のなか、沖縄は悲惨な運命をたどった。同じころ故郷を離れ、海の向こうで暮らすウチナーンチュにも悲劇はあった。

日本がアジア・太平洋戦争に敗れる以前、台湾は長らく日本の植民地支配下にあり、帝国の南方拠点として開発・発展した。戦前には約40万人の日本人が移住し、当時の経済状況や島々の地理的な近さからも多くのウチナーンチュが移り住んだ。

大戦末期、サイパン陥落など戦局悪化に伴い、沖縄からも2万人の台湾疎開が閣議決定された。しかし、その台湾も各地で空襲被害が増大し、砲弾から逃げ惑う日々が続くなど決して安全ではなく、途中で攻撃を受け沈む疎開船や無事に上陸しても二次疎開を余儀なくされる人もいた。また、終戦後も沖縄がアメリカの管理下になったため、思うように引き揚げが進まず、足止めされたウチナーンチュは貧窮のどん底にあえいだ。

フィリピンにおいても多くのウチナーンチュがアバカ(麻)の栽培に夢と希望を抱き、苦勞しながらも大地を開墾して豊になり、約2万人といわれる日本人移民の半数を超える沖縄県出身者が生活をしていた。しかし、この地にも戦火は迫り、男性は徴兵され女性や子どもも例外なく日本軍の飛行場建設などで多くの移民が勤勞奉仕に駆り出された。また、戦時中には砲弾はもとより、山中を逃げ惑い日本兵による略奪やマラリアで命を失うなど悲惨な出来事も起こった。

両地には多くのウチナーンチュが暮らし、戦火の中、砲弾や飢え、不安と戦わなければならなかった過酷な体験、そして終戦後の引き揚げの際には琉球難民と呼ばれるような状況になった事実は県民に深くは知られていない。彼らの一連の体験を今を生きる私たちに伝え残すことで、平和を希求する「沖縄のこころ」を発信する機会とする。

4. 展示内容

第I部: 近くて遠い台湾 ～蓬萊の島とともに～

- 1 南進の拠点台湾
- 2 海を渡ったウチナーンチュ
- 3 南門の防波堤
- 4 台湾とのつながり



第II部: 砲弾と飢えと不安の中で ～異国のふるさとダバオ～

- 1 緑豊かな大地
- 2 希望の大地
- 3 希望の大地から壮絶な逃避行へ
- 4 フィリピンと沖縄の絆



平成27年度 沖縄県博物館協会総会・春の研修会

期日：平成27年5月14日(木)、15日(金) 場所：沖縄県平和祈念資料館2F大会議室

戦後70年の節目にあわせて、当館での開催となった。35の加盟館、個人会員が参加し、2日間にわたり研修を行った。立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長の安斎育郎氏を招いての講話、ひめゆり平和祈念資料館、南風原文化センターによる事例報告が行われた。当館も、約1時間にわたり事例報告を行った。ワークショップも開催され、活発な質疑が行われた。安斎育郎氏からは、「多彩な企画を組み合わせ、多角的に戦時の重く



るしさや不自由さ、その中で『人が悪魔になっていく過程』を伝えられたらよいと思う』との助言をいただいた。また、協会の役割としては「各館の取り組みをネットワーク化し、情報や経験の共有化に貢献できれば」と方向性を示していただいた。

友の会活動状況

1 沖縄県平和祈念資料館友の会(平成17年設立)では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを自主的に行うとともに、以下のような活動を行っています。

- (1)地域(県全域)および学校における平和学習の支援
- (2)県外からの平和学習団体への講和・ガイド
- (3)沖縄県平和祈念資料館常設展示室での解説

2 活動状況(平成27年4月から6月30日現在)

(1)平和講和・ガイド実績※() 昨年度同時期

団 体	実施件数(昨年度比)	実施件数(昨年度比)	派遣講師(昨年度比)
高等学校	15件(+0)	4188名(-3242)	15件(+0)
中学校	45件(-6)	6538名(-282)	45件(-6)
小学校	18件(+1)	7153名(-1000)	18件(+1)
その他	8件(-2)	481名(+275)	14件(+4)
合 計	93件(+0)	18360名(-4249)	92件(-1)

県内学校：小学校16校、中学校4校、高校4校 県外学校：小学校2校、中学校41校、高校14校

(2)常設展示室解説委員配置実績25人平成27年4月～6月30日

(3)平和祈念財団こいのぼり掲揚事業への協力(5月2日)

(4)平成27年度友の会総会5月6日(水)

(5)学習会：平和学習ウォーク

第1回5月16日(土)「徒歩で行く安里から首里への道月桃の花咲く頃」

第2回6月6日(土)「激戦の高地とフテンマ・エアフィールド」



総会で寄せられたご意見を資料館職員会議にて報告検討し、友の会活動へ反映。館内案内について新方針を確認する。



低学年の児童にもわかりやす講話でしたという感想を、先生方からいただきました。

八重山平和祈念館 平成27年度事業実施報告

(1) 「八重山の戦争マラリア」展

[期間] 平成27年5月30日(土)～6月28日(日)

戦後70年という節目の今年、「戦争マラリア」をいま一度見つめ直し幅広い世代に伝えることを目的に展示を行いました。また、戦前からのマラリア、戦後のマラリア撲滅に向けたあゆみや、戦争マラリアの補償問題も取り上げました。

「マラリアのため亡くなった方が多くいたこと、その経緯もよく分かった」「平和を願い続ける事が大切だと思います」といった感想が寄せられました。



(2) 学校教員向け祈念館利用研修

[期間] 平成27年5月28日(木)～6月12日(金)

学校で平和学習が活発に行われる6月に合わせ、主に初任者の方を対象にした研修を実施しました。館内の展示解説、当館の利用や活用方法を説明し、18名の方が参加しました。

今後の平和学習に役立てていただき、また、少しでも多くの学校に祈念館を利用していただきたいと思います。



(3) 高校生ガイドの実践

[期間] 平成27年4月21日(火)、6月9日(火)

平成26年度から初の試みとして養成を行った高校生平和ガイドが県外からの修学旅行生や島内の高校生にガイドを行いました。戦争体験者の話を織り交ぜながら、戦争マラリアや、沖縄・八重山の戦争について語りました。

同世代のガイドから説明を受けた生徒たちからは「詳しく調べていることが感じられた。地元のことを知ってもらおうと頑張っているなと思った。」などの感想が寄せられました。



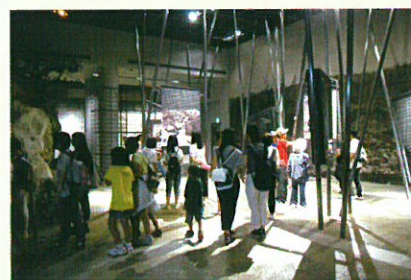
第二十五回 児童・生徒の平和メッセージ

「みるく世がやゆら」 与勝高校三年 知念 捷

みるく世がやゆら
 平和を願った 古の琉球人が詠んだ琉歌が 私へ訴える
 「戦世^{せんせい}がやまら みるく世がやがて 嘆^{なげ}くなよ
 巨下^{こくろ} 命^{いのち}と宝^{たから}」
 七〇年前のあの日と同じように
 今年もまたせみの鳴き声が梅雨の終りを告げる
 七〇年目の慰霊の日
 大地の息を受け大きく育ったクワディサーの木々の間を
 夏^{なつ}至^{いた}南^{みなみ}風^{かぜ}の 湿^{しめ}った潮風^{うしほ}が吹き抜ける
 せみの声は微かに 風の中へと消えてゆく
 クワディサーの木々に触れ せみの声に耳を澄ます
 みるく世がやゆら
 「今は平和でしよりか」と 私は風に問い
 花を愛し踊りを愛し私を孫のように愛してくれた祖父の姉
 戦後七〇年再婚をせず戦争未亡人として生き抜いた祖父の姉
 九十才を超え彼女の体は折れ曲がりベッドへと横臥する
 一九四五年 沖縄戦 彼女は愛する夫を失った
 一人 妻と乳飲み子を残し 二十二才の若い死
 南部の戦跡へと 礎へと
 夫の足跡を 夫のぬくもりを 求め探しまわった
 彼女のもとには 戦死を報せる紙一枚
 亀甲墓^{かめがねぼ}に納められた骨壺^{こつぼ}には 彼女が拾った小さな石
 戦後七〇年を前にして 彼女は認知症を患った
 愛する夫のことを 若い夫婦の幸せを奪った あの戦争を
 すべての記憶が 漆黒の間へと消えゆくのを前にして
 彼女は歌う
 愛する夫と戦争の記憶を呼び止めるかのように
 あなたが笑ってお戻りになられることをお待たしていますと
 軍人節の歌に込め 何十回 何百回と
 次第に途切れ途切れになる 彼女の歌声
 無慈悲にも自然の摂理は 彼女の記憶を風の中へと消し
 てゆく
 七〇年の時を経て 彼女の哀しみが 刻まれた頬を涙が
 つたう
 蒼天に飛び立つ鳩を 平和の象徴というのなら
 彼女が戦争の惨めさと 戦争の風化の現状を 私へ物語る
 みるく世がやゆら
 彼女の夫の名が 二十四万もの犠牲者の名が
 刻まれた礎に 私は問い
 みるく世がやゆら
 頭上を飛び交う戦闘機 クワディサーの葉のたゆたい
 六月二十三日の世界に 私は問い
 みるく世がやゆら
 戦争の恐ろしさを知らぬ私に 私は問い
 気が重い 一層 戦争のことは風に流してしまいたい
 しかし忘れてはならぬ 彼女の記憶を 戦争の惨めさを
 伝えねばならぬ 彼女の哀しさを 平和の尊さを
 みるく世がやゆら
 大きく鳴け 思うがままに
 クワディサーよ 大きく育て 燦爛と注ぐ光を浴びて
 古のあの琉歌よ 時を超え今 世界中を駆け巡れ
 今が平和で これからも平和であり続けるために
 みるく世がやゆら
 潮風に吹かれ 私は彼女の記憶を心に留める
 みるく世の素晴らしさを 未来へと繋ぐ

慰霊の日の平和祈念資料館

6月23日(火)慰霊の日には、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が行われました。毎年この日は常設展示室の観覧を無料開放し、開館を午後6時まで1時間延長しています。今年も4,007人の観覧者が入場しました。館内では「児童・生徒の平和メッセージ展」、「日系米国人版戦争体験収録事業成果報告展」、「第1回子ども・プロセス企画展：沖縄戦と本土決戦－捨て石にされた沖縄－」、「慰霊の日ビデオ上映会」、「平和祈念読み聞かせ会」、「Mabuni Peasuプロジェクト美術・平和・鎮魂そして未来へ」、「LOVE & PEASE in沖縄」と、多彩なイベントが開催され、平和への願いを新たにする日となりました。



資料のご提供について

戦後70年を迎え、戦争を知らない多くの戦後世代へ、二度とおこしてはならない戦争の教訓を語り継いでいかなければなりません。そのためには、戦前、戦中、戦後の資料等が重要な役割を果たしていることとなります。このような資料をお持ちの方、是非ご寄贈下さいませ。御協力お願い致します。詳しくは、沖縄県平和祈念資料館までお問い合わせ下さい。

資料の貸出しについて

当資料館では、「沖縄戦体験者証言ビデオ」、「沖縄戦写真パネル」、「沖縄戦の絵」、「実物資料」、「平和学習キット」の貸出しを行っています。平和学習の補助教材として、県内外学校からの申込みをお待ちしております。

県内学校向け平和講話について

沖縄戦の歴史的教訓を次代へ正しく伝えることが急務となっています。当館では沖縄戦の理解と平和のために何が出来るかを考えてもらうきっかけとなるよう、県内の小中学校、特別支援学校に対する「平和講話」を実施しております。内容は、沖縄戦に至るまでの歴史的経緯や沖縄戦の特徴、常設展示室の見所などです。総合学習等の一環としてさらなる活用をお願いします。年間を通して実施しておりますが、4月から慰霊の日にかけては込み合いますので早めの御予約をお願いします。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
 URL <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
 E-MAIL webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp



日本平和博物館会誌
 NIPPON HEIWA BOKUHAN KAI SHI